

論文審査の要旨 (甲)

申請者領域・分野 氏名	循環病態科学領域循環病態内科学教育研究分野 妹尾麻衣子
指導教授氏名	富田 泰史
論文審査担当者	主 査 津田 英一 副 査 大門 眞 副 査 花田 裕之
(論文題目) Prognostic impact of snow shoveling for patients with acute myocardial infarction (急性心筋梗塞患者の予後に及ぼす雪かきの影響)	
(論文審査の要旨) 本論文は寒冷、降雪地であるが故に本県が抱える健康課題の一つである、冬季間に発症する急性心筋梗塞 (AMI) を研究対象として、雪かきに関連する発症が予後に与える影響を明らかにすることを目的として行われた。2008～2014年の冬期間 (11～3月) に発症した AMI のうち、24 時間以内に弘前大学医学部附属病院にて経皮的冠動脈インターベンションを受けた連続 325 例を後ろ向きに調査した。雪かき中または雪かき後 6 時間以内に AMI を発症した患者を雪かき群 (SS 群)、それ以外による発症の患者を非雪かき群 (non-SS 群) に分類した。患者背景因子 (年齢、性別、冠危険因子)、臨床検査所見 (標準 12 誘導心電図、血液検査、心エコー検査、冠動脈造影検査)、心血管イベント (心血管死、非致命的 AMI、非致命的脳卒中、心不全入院) の発生を 2 群間で統計学的に比較した。その結果、36 例 (11%) が雪かきに関連した AMI 発症であり SS 群に分類された。患者背景因子、臨床検査所見には両群間に有意差は見られなかった。一方、心血管イベントの発生は SS 群 36 例中 3 例 (8%)、non-SS 群 289 例中 73 例 (25%) であり、心血管イベントを end point とした生存曲線分析では non-SS 群に比較して SS 群において有意に予後が良好であった。特に心機能の指標である左室駆出率が 40% 以上の患者では、雪かきによる発症は心血管イベント発生の独立した予測因子であることが多変量解析により示された。雪かき作業は日常生活活動の中でも比較的運動強度の高い作業であるため、それによる AMI 発症は予後良好な因子となったことが考察された。本研究は雪かきによる AMI の発症とその後の心血管イベント発生との関連を初めて示したものであり、発症原因が有用な予後予測因子となり得るとした新知見は臨床上極めて有益なものであり、本論文は学位授与に値するものとする。	
公表雑誌等名	弘前医学 (平成 30 年 12 月受理、掲載予定)

※論文題目が英文の場合は () 内に和訳を付記する。

※論文審査の要旨は 900 字程度で本ページ 1 枚以内とする。

※論文審査の要旨の最後には、～「学位授与に値する。」と記入する。